

# G3のツイッター その35

## 烈剛河内 竹井 保満

私が集めた我楽多の中に、清国の李鴻章の書いた掛け軸があります。

「天懸海外三千界」

と、描かれており気宇壮大で、清国の三筆と謳われた程の素晴らしい書です。この李鴻章が関係したものに、我が国が屈辱的な仕打ちを受けた長崎事件があります。長崎事件とは明治19年、清の海軍が軍艦の修理のため長崎に入ったとき、清の水兵が市内で民間人に強盗や暴行狼藉を働き、日本の警察と抜刀して争い多数の死者や負傷者を出した事です。その始末に登場したのが李鴻章で、自国の死者や負傷者を水増しして請求し、多額の賠償金を持って帰りました。

その8年後の明治27～28年に委、李氏朝鮮をめぐり日清戦争が起こり我が国が大勝利をおさめます。講和条約に李鴻章が来日し下関で調印します。台湾、遼東半島、朝鮮の独立、そして2億テール（今のお金で7758.4億円）が日本に入りました。この会談中に李鴻章は、小山豊太郎と言う暴漢に襲われ負傷します。その為に、世界は清に味方し日本が有利な交渉を難しくしました。いつの世にもこんな男がいるものです。

その後、折角の賠償も、ドイツ・フランス・ロシアの三国が干渉に入り、残念ながら遼東半島を清に返します。これをロシアが借り入れ東方進出の拠点にします。アジアに進出し巨利を得ているイギリスがロシアのアジア進出を恐れ、明治37年に日露戦争を誘導します。戦費は清の賠償金も大きな役割を果たしました。

さて、曰くありの李鴻章の掛け軸ですが、値打ちが有るのか無いのか、高い値が付くことを願っています。

明けても暮れても、トランプ、トランプと煩いことですが、先日、BS1の深夜放送で、強欲時代との題でトランプ親子の財の作り方のフィルムを視ました。一時間ものでしたが、正に無法で、金儲けの為なら何でも有りの、とても考えられない驚きものでした。何十年も培ってきた無法者の精神が、大統領になったからといって直ぐに改められるものでもなく、何時、何を起こされても、ひっくり返されても不思議はないと思います。

トランプ・ファースト、アメリカ・ファーストで経済の立て直しは勝手ですが、他国や文化に口出しは無用です。文化交流もない、スポーツの交流も無しの、刺々しい地球はたまりません。

スポーツを愛する我々も、政治に無関心ではられません。

今回は、パワーワールドニュースには相応しくないものになり、自分でも嫌なG3のツイッターになり、申し訳ありません。